

アカゲラ通信



「右向き」と「左向き」

昔の野鳥をはじめとした生物の図鑑は、頭が左向きに描かれている絵が多く用いられていました。1982年に初版が刊行された日本野鳥の会の図鑑「フィールドガイド日本の野鳥」では、ごく一部を除き野鳥の絵は左向きに描かれています (右写真ムギマキ雄)。

これは、右利きの人は左から右に線を引く方がスムーズに描けるといいう人間の習性に由来した伝統的なものによります。紙と筆記具が手元にある方はぜひ試してみてください。

しかし近年はCGの普及などの影響で右向きの絵も普通に見られます。写真を使った図鑑ではいうにおよばずです。

■一方で、人は、右向きのものには「未来に向かって前進している」というイメージを抱きがちです。

生物の教科書に描かれている人間の進化のイラストは右向きで、左が原人、右が現在の人間という並びであり、右に向かって大きくなり進化してゆくように描かれていました。

西洋の言語は基本的に左から右に書き進むもので、それも、右に進む=先に進むというイメージにつながりやすいでしょう。

■アメリカンフットボールリーグNFL所属32チームのうち、17チームで動物や人間が公式ロゴのモチーフになっていますが、うち13チームが右向き、3チームが正面で、左向きはわずか1チームのみです。

これはやはり、右向き=前に進むというイメージと考えられます。

また、それ以外の15チームのうち3チームは、モチーフとなっているものが右向きに描かれており、残り12チームは文字を中心としたもので向きは特になく(あえていえば正面)、左向きのチームはありません。

唯一左向きのフィラデルフィア・イーグルス(右写真上)は、頭の後ろの羽が“Eagles”の“E”に見えるというデザイン上の理由でそうになりました。

余談ですが、NFLのNo.1チームを決めるスーパーボウルでは、2025年がそのイーグルス、2026年がシアトル・シーホークス(右写真下)と、2年連続で「鳥チーム」が優勝しています。



■巻貝の「右巻き」「左巻き」は、貝の頂点を上にして横から見た場合(左写真左)、口が貝の頂点より右なら「右巻き」、左なら「左巻き」です。巻貝の9割以上は右巻きといわれています。上から見ると、右巻きは、頂点から始まって右に巻きながら幅が広がって口にたどり着くように見えます(左写真右)。

■右向き、左向きは写真の構図にも影響します。一般的に、メインの被写体が右向きで右側にスペースを広くとった構図では、前向きで安定したイメージを持たれやすい一方、右向きで右側のスペースが狭かったり、左向きで左側のスペースが狭い写真は、窮屈で不安定な印象を持たれかねません。

下のハシブトガラの写真、左が右向きで右側のスペースが広い、真ん中が右向きで右側のスペースが狭い、そして右が左向きで左側のスペースが狭いものですが、見比べてそう感じませんか？

写真は、撮影時に心がけることもできますが、トリミングの際にもそのことを頭に置くと、バラン

スがとれ見栄えがするカットになるのではないのでしょうか。



レストハウス「ぼるく」2026年度は4月10日(金)営業開始です

旭山野鳥メモ 77 マガン

マガン Greater White-Fronted Goose *Anser albifrons* カモ目カモ科
冬鳥だが、北海道では北から来る秋と北へ帰る前の春に見られ厳冬期にはいないので旅鳥とすべきか。旭山では上空通過する編隊を双眼鏡により種同定できたので出現種として記録している。

胸に出る雲のような模様は個体差が大きい。英名の由来である顔の嘴の付け根の白い部分は幼鳥では見られない。「ガハン」と鳴く。

美唄市宮島沼がマガン寄留地として有名。毎年春の最盛期に一斉カウントが行われ、2025年は6万羽以上がカウントされた。マガンは美唄市の鳥でありカントリーサインにも用いられている。

千歳市旧長都沼と長沼町舞鶴遊水地でも、3月後半から4月にかけて、日の出前後にけたたましい鳴き声や羽音とともに一斉に飛び立つ。その光景は圧巻。体験する価値は大いにある。夕方に帰って来るのは一斉ではないが次々と編隊で飛んで来る様子も楽しい。どちらにもヒシクイもいて、タンチョウがいることもある。

日中は畑で落穂などを採餌するが、ガンなどに来てほしくない畑では発砲音を鳴らしていることもある。

春と秋の風物詩。朝夕V字型の編隊がドライブ中にも見られる。北に帰る前に見に行く機会があればぜひ。



2026年3月の野鳥トピックス

■ 3月中に見られる可能性がある夏鳥（いずれも下旬）：ホオジロ、キジバト、モズ、ヤマシギ

● シマエナガ：2月後半イタヤカエデの樹液に来る日もありました

3月に入り群れがばらけ、下旬には営巣行動が見られそうです

● キクイタダキ：園内の松の木で観察機会が増えました

● キバシリ：西側エリアで比較的良好に見られています

● ウソ：「フィ」と鳴き声は聞かれ時々姿も近くで見られています

● シメ：「シーッ」と鳴き声が聞かれ姿を見る機会も少なくないです

● ベニヒワ：2月中旬まで毎日見られていましたが減りました

● カワラヒワ：2月下旬から園内で見られるようになり「ギューンキリコロ」と囀りもしています

● カケス（亜種ミヤマカケス）：「ピョー」と何の鳥か分からない鳴きまねをする個体があります

● クマゲラ：週に2、3回園内で近くで見られ、鳴き声はほぼ毎日聞かれています（↑写真雌）

● ヤマゲラ：近くでの観察機会が増え「ピョッピョッピョッ」という鳴き声は毎日聞かれています



皆既月食 2026年3月3日火曜日

皆既月食当日、道内は曇りでほとんど見られないだろうと喧伝(けんでん)されていました

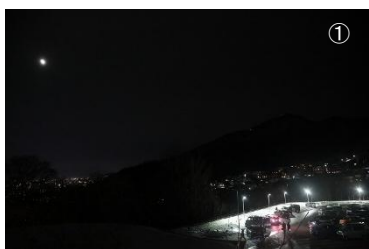
しかし実際は、薄い雲の向こうにぼんやりと赤らんだ月を見ることができました。

写真①は月食が始まった後の19時43分、小さいですが月の左下が欠けているのが見えます。

②は皆既月食中の20時39分。皆既が始まると雲が厚くなって月が隠れる瞬間もありましたが、薄い雲の向こうながらも月は概ね見え続けていました。写真がぼんやり白んでいるのは、雲があるからです。

③は皆既が終わった21時5分、④は21時10分で、月が指輪のように輝いて見えました。

期待半分以下で臨んだだけに、観察できたのは思いがけない贈り物のように感じられました。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第148号 2026(令和8)年3月6日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351